

株式会社 神戸製鋼所
(コード番号) 5406

平成13年3月期 決算見通しについて

当社の第148期(平成13年3月期)の決算につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

(1) 連結決算見通し

当期のわが国経済は、期の前半はIT関連の民間設備投資に支えられて緩やかな回復基調を辿ったものの、個人消費の伸び悩みに加え、設備投資にも翳りが見えるなど、景気の先行きに不透明感が広がっております。また海外では、世界経済のけん引役を果たしてきた米国経済が減速傾向に転じたことに加え、好調に推移してきた東南アジア地域においても在庫が積みあがるなど、輸出環境についても急速に悪化してまいりました。

このような状況の下、当社及びグループ各社は、昨年5月に策定した「連結中期経営計画」に全力で取り組むとともに、収益の確保に最大限の努力を払ってまいりました。

当期の売上高は、全体で13,700億円程度と当初見通し(昨年11月22日発表)並みとなる見込みであります。

経常利益につきましては、鉄鋼関連事業において鋼材価格が下落傾向にあることから若干の減益が見込まれますが、その他の事業が当初見通し並みに推移していることから、全体としては当初見通しの500億円程度に大きな変化は無いものと予想しております。

一方、税引後の当期利益につきましては、KMTセミコンダクターの株式譲渡価額が当初合意時に比べて減額となったことに伴い、特別損失が110億円悪化することなどから、当初見通しに比べて70億円減益の70億円程度となる見込みであります。

(億円)

	売上高	経常利益	当期利益
今回見通し	13,700	500	70
前回見通し(本年2月16日)	13,700	500	70
当初見通し(昨年11月22日)	13,700	500	140
(参考)前期実績	12,525	137	530

(2) 単独決算見通し

当期の売上高は、全体で 8,200 億円程度と当初見通し並みとなる見込みであります。

経常利益につきましては、鉄鋼部門において鋼材価格の下落に伴う若干の減益が見込まれるものの、都市環境関連を中心に機械部門が増益となることなどから、全体では当初見通し並みの 150 億円程度となる見込みであります。

一方、税引後の当期利益につきましては、連結決算同様、KMT セミコンダクターの株式譲渡価額が当初合意時に比べて減額となったことに伴い、特別損失が 110 億円悪化することなどから、当初見通しに比べて 70 億円悪化し、640 億円程度の損失となる見込みであります。

(億円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 利 益
今 回 見 通 し	8,200	150	640
前回見通し (本年 2 月 16 日)	8,200	150	640
当初見通し (昨年 11 月 22 日)	8,200	150	570
(参考) 前 期 実 績	8,377	82	151

〔 配当について 〕

当期の配当につきましては、平成 13 年 3 月末においても引続き欠損金を計上いたしますので、誠に申し訳なく存じますが、商法の規定により実施することができません。

事情ご賢察のうえ、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

当社といたしましては、事業構造の変革をさらに推し進め、財務体質の早期回復を図ることにより、「連結中期経営計画」に掲げた「グループトータルとしての企業価値の向上」に向けて、グループの総力をあげて取り組んでまいり所存であります。

以 上